

## GMELIN Handbook —化学者の宝石箱—

星野英興

卒業研究で所属した無機化学講座の教授室に、天井までの壁一面を埋め尽くした書籍群を見て圧倒されたのが、GMELIN Handbook (1817年ドイツ人化学者 Leopold Gmelin により創刊された Gmelins Handbuch der anorganischen Chemie) との最初の出会いであった。理学部の一講座にあったこの書籍が、いかに高価であるかは知る由もなかった。アレキサンダー・フォン・フンボルト財団研究員として、ドイツ・マールブルク大学に留学し、新しくとりかかる実験に関する情報等を集めるために、ドイツ語と格闘しながら読み漁ったのが次の出会いであった。必要とする情報が“芋づる式”に探り当てられ、実験結果のエッセンスを、図表を含めて正確に把握できる高い完成度の抄録として作り上げている編集内容に感嘆させられた。ただし、多くの研究者にとっては、「ドイツ語表示」ということが、利用しにくい理由であったのは確かである。

弘前大学に赴任し、GMELIN Handbook が附属図書館に所蔵されていないことを知り、心細く感じた。最新の情報は近着雑誌、Current Contents, Chemical Abstracts 等でカバーできるにしても、遑っての文献検索には決して十分とはいえない状況だったからである。機会あるごとに館員の方に話していたこともあり、緊急予算がついた1988年3月によりやく一部購入・所蔵されることになった。おかげで文献検索作業に費やす労力が大幅に軽減した。これが呼び水となり、平成6年度に申請した自然科学系図書資料収書計画に対して正式予算がつき、更なる所蔵が可能となった。

さて、簡単に GMELIN Handbook を紹介する。この書籍は元素または元素群単位でまとめられているので、system の総数は71、また、各 system は、元素及びその化合物についてま

とめられた分冊で構成されている。元素については、起源、精製法、化学的及び物理的諸性質、反応性等の情報が、原著に忠実かつ詳細に抄録されている。また、化合物については、状態図、反応性、合成法等が、同じ system の分冊中で関連する事項がある場合には、相互に比較検討及び補完できるように、一方が引用されている所に常に他方の引用箇所が明示されており、注目する化合物の情報をまさに多面的に検討・理解できるように編集されている。さらに、原典の内容を忠実に再現した図及び表等では、複数のデータがある場合には、それぞれが一切のコメント無しに淡々と併記されている。『これぞ実験の本質なのだ』と言わんばかりの心憎い配慮が窺える。これらの点が、通常の Handbook とはひと味違うところで、別名《化学者の宝石箱》と呼んでいる所以である。各分冊の編纂には、その時代における第一線の化学者集団が携わり、研究者の良心と汗の結晶として完成される点でも《宝石》に値する。1990年からは、元素によっては、研究の進展が著しい有機金属化合物についての抄録も開始している。これら元素、化合物及び有機金属化合物の記述と一緒に、刊行された年度までの文献が余すところなく引用されている。抄録された記述では不十分と思われる文献だけをピックアップし、文献請求等が行えるメリットは後学の者には何物にも代え難い。1980年に刊行された初版分冊からは全文英語表記となった。ドイツ人自身が、ドイツ語は国際語でないと認識しているので、当然のことと言えよう。これを機に書名が GMELIN Handbook of Inorganic and Organometallic Chemistry に変わった。

現在弘前大学附属図書館に所蔵されている system 数は15で、分冊数は111となっている。

現時点では、その量からして決して大型コレクションとはいえない。全てが揃った暁にはそのようにも呼べるという願望をこめて、ここに「大型コレクション」の仲間に加えられたものと思っている。その内訳は次の通りである。

- System    No. 3 Oxygen (全10分冊)  
          No. 9 Sulfur (全10分冊)  
          No.10 Selenium (全9分冊)  
          No.11 Tellurium (全6分冊)  
          No.20 Lithium (1分冊)  
          No.21 Sodium (全9分冊)  
          No.22 Potassium (全9分冊)  
          No.24 Rubidium (1分冊)  
          No.25 Cesium (全2分冊)  
          No.34 Mercury (5分冊)  
          No.47 Lead (全14分冊)  
          No.59 Iron (12分冊)  
          No.60 Copper (7分冊)  
          No.61 Silver (全12分冊)  
          No.62 Gold (全4分冊)

ここで、“全”は現時点で刊行されているもの全てが所蔵されていることを表す。また、No.10 Selenium, No.47 Lead 及び No.62 Gold の一部分冊で、全文英語表記となっている。

る。緑のカバーに金文字の元素記号が入ったこの所蔵書は、附属図書館2階参考図書室に隣接する書庫に“2次資料”として並べられ、皆様の活用を待っている。

未所蔵の56 system 及び関連分冊を、ひとつでも増やせるよう平成7年度以降も申請を続ける。幸い学内には、GMELIN Handbook の重要性を認識して下さる方が少なからずおられるので、その方々とも協力して興味に偏りなく順次所蔵できるよう努力したい。外貨調整、円高等が追い風となって、かつては到底手に入らぬものと思っていたこの高価な書籍が所蔵されるようになった意義は大きい。しかし、研究は日進月歩である。弘前大学附属図書館及び各学部図書室に納められている雑誌等で得られる以外の情報が必要とされる時には、必ずや GMELIN Handbook は威力を発揮することになろう。“open-ended”方式をとっているので、最新情報が集積されるごとに GMELIN Handbook は刊行され続ける。今は遅れをとっていても、いつかは最先端の刊行に追いつき追い越す(?)ことを目指す息の長い意志に、図書館関係者並びに学内諸賢のご支援ご協力を切に願います。

(ほしの・ひでおき 教育学部教授)